

令和7年度 学校研究

(1) 研究主題

「自律した学びでの育成」

～自己調整力を高めた『ふり返り』を書ける子～

(2) 主題設定の理由

昨年度は、一昨年度の成果と課題を生かしつつ、児童に委ねる時間を多くとることで、児童が自分の学習を自分でふり返り、調整していける自律した学び手になれるよう研究を進めていった。算数科に教科を絞り、研究主題「自律した学び手の育成」を達成すべく4つの研究内容が設定された。第一に、単元構想である。深い教材研究を通して身につけたい資質・能力や教科のねらいを教師が明確にもったうえで、児童が計画的に学習を進めることのできる学習計画表を作成した。さらに、個別最適・協働の場をどこに入れ込んでいくのか、自由進度学習を何時間分入れるのかなど、単元のデザインも追究した。第二に、教師の手立てである。ヒントカードや動画教材を作成し、一人一人の学びの見取りも行うようにした。さらに、教科書にとどまらない多様な学び方を子供達に提供できるよう、学ぶ環境もデザインした。第三に、ふり返りである。授業の終末5分をふり返りの時間とし、1時間の自分の学びを3段階評価や文章記述で振り返るようにした。そして学期毎に児童、教師それぞれアンケートを実施し、結果を分析した。第四に、学級経営である。生徒指導4つの視点を意識した学級経営を行うことを通して、安心して学びに向かえる学級風土づくりを目指した。

そのうえで、昨年度2学期末の児童・教員アンケートを分析した。すると「自分の考えや思いを发表或し、文字で書いたりして表現できる場を設定したか」項目において92%の教員が肯定的な回答をしていたが、「よくできた」「できた」と肯定的な回答をしている児童が81%にとどまった。これは、全11項目のうち最も低い数値である(同ポイントが計3項目)。また、昨年度最後の研究全体会にて、職員から「次年度の研究主題(どのような子どもに育てたいか)」に関して Padlet にて意見を集約した。「自分の考えを持ち、自分にあった学びを選択できる子」「あらゆる事象に対して、能動的に考えることのできる(自律した)児童」「自分の思いを自分の言葉で語れる子」などの意見が挙げられた。16人分の意見をまとめると、多くの意見に共通しているのは、「自律した学び手の育成」と「協働的な学びの充実」であり、特に、自分の学び方を自己決定・自己調整し、振り返りを通じて成長できる子を目指す声が多く見られた。

これらの反省を生かし、本年度の研究主題を「自律した学びでの育成～自己調整力を高めた『ふり返り』を書ける子～」とした。

(3) 研究構想図

学校教育目標
「自ら考え、協働できる児童の育成」～ 自分も人も笑顔になれる 学校をみんなでつくる～

めざす児童像
自分も人も笑顔になれるために 協働する子

研究主題
「自律した学びでの育成」
～自己調整力を高めた『ふり返り』を書ける子～

【算数科】
ふり返りの視点：自律性

方法① 1学期：学級づくりの基礎固め / 2学期：単元内自由進度学習① / 3学期：単元内自由進度学習②

方法② 全学年の研究授業・公開授業 / 指導案に手立てを明記 / 事後協議会のもち方

方法③ 年5回「授業交流週間」の設定

方法④ 月1回程度「スマイル教材研究の日」の設定

方法⑤ 3つの検証方法：学期末教員アンケート / 学期末児童アンケート / 2学期末ふり返りの分析

方法⑥ 校内研修サポート / 加賀市教育委員会から学ぶ研修 / 教育先進校から学ぶ研修

単元構想

- 付けたい資質・能力を明確にする
- 学習計画表を作成する
- 個別最適・協働的な学びの場を単元のどこに入れるかを考える
- チェックテストを作成する

教師の手立て

- ヒントカード、動画教材を作成する
- 一人一人の学びを見取る（誰がどの程度理解をしているのか）
- 学ぶ環境（一人・友達）をデザインする
- 多様な学び方（インターネット・動画・本・具体物）を提供する

学びを支える
学級経営

- 自己存在感の感受を促進する
教師から児童への温かな関わり
- 共感的な人間関係を育成する
あったか言葉 聴き方の指導
誤答を大事にした授業展開
- 安全・安心な風土を醸成する
学習規律の徹底規範意識の育成
毅然とした態度での生徒指導
- 自己決定の場を提供する
レベルアップタイム 自由進度学習
学び方・学ぶ環境の多様化
振り返り活動の充実